



発行所
天理教網走大教会
布教部出版広報掛
〒093-0073
網走市北3条西6丁目
TEL 0152-43-2227
FAX 0152-44-2227

大教会長年頭挨拶

新年明けましておめでとございます。
昨年中は大教会をはじめ、それぞれに繋がる教会へ本当に大変な中、精一杯おつとめ下さり、誠に苦勞様でした。
網走大教会に繋がる皆様の大きなご尽力のお陰で、三年千日の一年目を通して頂くことが出来ましたこと、心よりお礼申し上げます。



真柱様は年頭の挨拶で、「この三年千日の歩み方が大切。三年千日は準備期間ではなく、もうすでに本番であります。普段よりひながたを意識して毎日を通る。」とお話を下さいました。
本年は更におやさまのひながたを学び、日々の生活の中で実践できるよう、又、網走大教会が一つとなつて心定めの達成に向け、力一杯つとめさせて頂きましょう。

本年もお力添えの程を何卒お願い致します。
立教百八十七年 正月
網走大教会長 三幣 健志



大教会十二月月次祭

大教会12月の月次祭は、12日午前9時30分から大教会長祭主のもと、執行された。

大教会長は祭文で、親神様の御守護に御礼申し上げた後「思い返せば、この一年、教祖百四十年祭に向かう三年千日の一年目として、教祖のひながたを目標に全教会心定めの達成という活動方針を掲げ、網走大教会全部内をはじめ繋がる者一同ねりあいのもと、具体的に初席者六十九名、ようぼく四十四名、修養科修了者三十四名、教人二十一名の心定めをさせて頂き、この定めを頭から離すことなく一生懸命に通らせて頂きました。一人でも多くの初席者、ようぼくの御守護が頂けるよう、おぢばでの行事に力を入れると共に、修養科生の御守護を頂戴すべく、修養科事前研修会よろこびセミナーを開講させて頂きました。又、御本部より頂戴したようぼく一斉活動日の御用など、年祭への動きを止めることなく勇んで勤めさせて頂いてまいりました。

まだまだ真実が足りぬとはいえ、年祭活動に伏せ込ませて頂き、有難くも結構な御守護を頂戴しましたので、只今より本年賜りました御恵みに御礼申し上げ、心を込めて納めの月次祭をつとめさせて頂きます。」と奏上した。
その後座りづとめ・十二下りのてをどりが勤められ、参拝者は共に勇んでみかぐらうたを唱和した。

神殿講話

三幣 輝子 理事



神殿講話全文

木は赤や黄色に紅葉して大変美しい親里の秋でした。晴れやかな表情をした大勢の子どもたちをご覧になって、教祖はきつとお喜び下さったのではないかと思います。

十一月の本部月次祭は、二十五・二十六日が土・日曜日であり、又二十五日は青年会総会が開催され、おぢばは多くの参拝者で賑わっていました。

さて年祭活動一年目の今年、おぢばでは私たちようぼくの年祭活動が充実したのものになるよう、後押しをして下さる様々な行事を打ち出して下さいました。ようぼく各々の心定めの完遂とおたすけのご守護を願つての「本部神殿でのお願いづとめ」、そして十一

立教186年 人のご守護 心定め			
初席者	ようぼく	修養科修了者	教人
69名	44名	34名	21名
成 果			(12月末現在)
28名	10名	6名	5名

月からはその後の「おさづけの取次ぎ」これは願ひ出た方は誰でも取り次いで頂けます。身上の方々にはどんなに心強い事でしょう。

又、「おやさとひのきしん」では、親里でのひのきしんの受け入れをして下さいました。月次祭終了後には、あちこちで草引きをする人々の姿が見られました。

更にはをやの思召を学ぶ場として「ようぼく講習会」が設けられました。これらは全て来年も継続されます。私たちがようぼくのために考えて下さった事です。出来る限り活用させて頂いて、それぞれの主旨と思ひにお応えしたいと思います。

大教会の方では、修養科事前研修のため開催された「よろこびセミナー」が好評を得て、今年前半は参加される方が多く、大教会も賑やかでした。教会長夫妻に対しては、毎月のねりあい、逸話篇の勉強、理づくりカレンダー等、年祭活動を充実させるための取り組みが工夫されました。詰所では、本部秋季大祭に合わせて「おぢばようぼく講

習会」を開催し、道の後継について講話を聞き、その後ねりあいの時間が持たれました。更にこの機に網走として「おやさとひのきしん」で境内地の草引きや落ち葉掃きをさせて頂き、親里ならではの喜びを味わいました。

おぢばも大教会も、年祭活動に一人でも多く加わって一手一つに盛り上げていけるように、教祖にお喜び頂ける年祭活動になるように心を尽されています。そのお気持ちを受けて一回でも多く、おぢばにも大教会にも足を運ばせて頂き、自分自身の心を勇ませて頂きましょう。大教会では、慌ただしくも新しい動きのある一年だったのではないでしょう。

さて今年の大教会活動方針は「教祖のひながたを目標に全教会心定めの達成」であります。これは三年間変わらない活動方針です。昨年、今年の心定めを提出する際、大教会長様より次のようなお話がありました。「毎年毎年御供と人の心定めを提出して頂くが、大教会として御供の方はともかく、人の心

定めは何年もの間完遂したことがない。神様との約束であるのに、あまりにも軽い扱いはなっているようで誠に申し訳なく思っている。立教百八十六年の心定めは明らかに出来そうもない数にしないで、しっかり向き合って精一杯頑張つて達成するぞというところにして下さい」というようなお話でした。

確かに心定め、特に人のご守護の心定めについては何年も完遂したことが無いにもかかわらず、完遂しないことが当たり前になってしまったように思います。たまたま今月の本部月次祭での神殿講話が心定めのお話でした。その中でこんなお話がありました。「本来我が事として真剣に取り組まねばならない心定めだが、毎年毎年同じように掲げるから努力目標の一つの様になってしまい、心定めが達成出来る出来ないという結果の全てを、神様のご守護に任せきりになっているのではな

いか」と話されていました。確かに努力目標のようになって「一生懸命努力しますのでご守護下さい」というような、

安易で曖昧なものになっていったと思ひ当たります。神様にお働き頂くには、それなりの事をさせて頂かなくてはなりません。お話では更に「まだ親神様・教祖を知らない世界中の人々に教えを伝え広めていく、大きな御用をようぼくである私たちに託して下さい」と思う。自分出来る事を考え、それを素直に実践する人々の心を誠実に受け取った証拠に、不思議・珍しいご守護を下さるのだと思う」と話されてい

ました。人を一名ご守護頂こうと思えば、どれ程の丹精が必要でしょうか。あてがわれるようでも、一朝一夕にはいきません。そのために自分の出来る事は何でしょうか。

論達第四号には「よふぼくは、進んで教会に足を運び、日頃からひのきしんに励み、家庭や職場など身近なところから、にをいがけを心掛けよう。身上、事情で悩む人々には、親身に寄り添い、おつとめで治まりを願ひ、病む者にはおさづけを取り次ぎ、真にたすかる道があることを伝え

よう。親神様は真実の心を受け取つて、自由の御守護をお見せ下される」とお示し頂いています。

あれこれ悩まなくても、素直にこの通りさせてもらえば良いのではないのでしょうか。いつの時代にも、ようぼくとしてのつとめを果たすことが、ご守護をお見せ下される基になるのだと思います。

ここで實東の信者さんのお話をさせて頂きたいと思ひます。昨年十一月にご主人を突然亡くして一人暮らしになった、私より少し年上の婦人さんがいます。ご主人は肺動脈塞栓が原因で待ったなしの出直でした。すっかり氣力を失くして食べ物も喉を通らず、夜も眠れない状態が続きまし

た。前の月に論達が発布されたばかりで、その中の一節「ふしから芽が出る」がすぐ心に浮かび、年祭活動が始まるうという時に合わせて下さった親心を感じさせて頂きました。何する氣力もない日々、おつとめとお子さん方の親を思う心に支えられて一日一日過ごされてい

やがて四月の教祖誕生祭・婦人会総会のバスの団参の時期となり、しばらくコロナ禍で中止していたこともあり、皆さんおぢばがえりを楽しみにしていました。教友に声をかけられ、婦人さんも久々のおぢばがえりです。今の心をおぢばなら、教祖なら何とかして下さるといふ思いで帰らせて頂きました。

教祖の温もりに心が癒され、教友たちとの話にも笑顔が多くなりました。東京に戻ってきて暫く経った五月末に、この前まで元気でいた甥御さんが余命宣告される身上で、急遽入院したとの連絡が入りました。しかもコロナ禍で病院の面会は許されず、おさづけの取次ぎも出来ない状況でした。

この甥御さんには、自分が入院していた時、毎日おさづけに通ってくれたので、何かあった時には恩返ししたいと思っていたそうです。それが出来ずに大変残念で気が揉めていました。

お願いづとめをして、何とかたすけてほしいと願っていました。他にまだ何か出来

る事はないかと思ひ悩んでいた時、手にした天理時報に「六月から本部神殿で願ひづとめをする」という記事を見て、これだ！教祖が私に用意して下さいったんだ！と確信し、直ぐに六・七・八月の三ヶ月おぢばに帰り、二十五日のお願ひづとめ、二十六日の月次祭を参拝する心定めをされました。

五月末に入院の知らせを受け、六月より本部神殿で願ひづとめをして下さるといふこと、本当に教祖が先回りして下さいったとしか思えません。今までは年に一回、四月の団参でおぢばに帰るのが精一杯でした。又歩くこともこのころ、以前のようにはいかなくなっていたので、この心定めはかなり思い切った決断です。

季節も夏、連日の猛暑の頃でした。往復は歩く距離が一番少ない、足を伸ばせる夜行バスを利用しました。体力を消耗するような連日の暑さでしたが、おぢばの力で心の向きも少しずつ変わり、平素はコッコツと定めた事を実行されてい

ました。状態は山あり谷ありでしたが、少しでも朗報が届けば、有難いね有難いねと喜ばせて頂きました。

こうして八月も半ば過ぎ、甥御さんは教会に繋がる方々の陰願いに対して、重ね重ねメールで感謝の気持ちを伝えて出直されました。八月の帰参はお葬儀と重なったため翌月に延期して、九月にご報告と御礼におぢばへ帰り、けじめとさせて頂きました。婦人さんは「今までおぢばは遠い所と思っていたけど、こんなに近いんだ。いつでも帰らせて頂ける」と感じるようになったと言います。

十月には秋季大祭にバス団参で帰参し、年に一回だったおぢばがえりが今年は何回になりました。その後分かったのですが、婦人さんが利用していた夜行バスは、九月一杯で運行停止となりました。ちょうど九月に利用した直後でした。心定めた三回のおぢばがえりが終わるまで、待っていて下さったのです。「教祖はいつも見ていて下さいますね」とまたまた感動でした。十一月に入り今年もあと

二ヶ月となった時、初席者一名という實東の心定めが、婦人さんの心を占めるようになって、以前から心にかかっていた別の甥の奥さんを、初席にお導き頂きたいとの思いが募ってきました。

彼女は結婚を機にお道を知った方ですが、小さな子どもを連れてご主人と家族三人で何回か教会に来てくれていました。信者さん方とも馴染んではいましたが、別席となると少々ためらいがあります。婦人さんはご主人の出直しで自分を振り返って見た時、もう少し若いうちから素直にお道の話聞いて実行していれば良かった。お義母さんの話を素直に聞けず、心の中で反発していたことを悔やまれています。若いうちから話を聞いて教えを実行すれば、要らない事に悩まず遠回りせずに通れるから、是非お話を聞いてほしいという思いがあります。

十一月二十五日の青年会総会に合わせて、この若夫婦が家族三人でおぢばがえりをすることになっていたので、何とかその折に別席を願って

いました。しかし総会の日の午前中、彼女は子供と一緒に奈良へ鹿を見に行く予定でした。おぢばへ発つ日がだんだん近づいてきます。初席者はおう彼女しかいないということ

が、皆の思うところでした。皆さん彼女に道の仲間になってほしい思いがあります。阿吽の呼吸とでもいうように、数名の方が後押しして下さいました。信者さんの中には直接何も出来ないけど、真剣にお願ひづとめをして下さる方もいました。何と云っても婦人さんの熱意が半端ではありませんでした。

そしていよいよ明日出発という前の晩、「別席を運びますので宜しくお願ひします」という電話が入りました。予定を変更してくれたのです。早速教祖にお礼申し上げました。皆さんの一手一つの真実に、教祖がお働き下さったご守護です。この家族が青年会総会におぢばがえりを決めてから、彼女が無事に初席を運ばせて頂くまでに、教祖のお導きを感じさせて頂く場面がいくつもあり、教祖が喜び下さって手を引いて下さって

教祖140年祭
三年千日の
活動方針

「教祖のひながたを目標に
全教会心定め達成」

周囲の人たちに、よりたす
かってもらいたいという気持
ちが湧いてきました。また、
どなたかを連れて来たいと思
います。
自分の未来も楽しみます。
心をきれいにし、お願い有難
うございます。お願い有難
うございます。お願い有難
うございます。



誠綱 菊池ゆかこ

修養科に行ったことはあつ
ても、まだまだ、天理教のこ
とを十分に理解していないこ
とを実感しました。

誠綱 田中 宏子

九億九万年前に親神様が人
類(地球・宇宙)を生んだ事
実の認識は、僕の心に軸を
作って下さいました。
今、人類、地球、宇宙は救
いを求めていることを感じて
います。私はそこに応えてい
ける一人になりたい。そこに
宗教の垣根はなく、個人、企
業、各宗教の全ての良い部分
が集まって一つにならなけれ
ばいけないと確信しています。
常軌を逸してみんなが陽気な
心で人や物、生物を大切にし
合って、学んでいけるような
世界に向けて、天理には大切
な真理があると思います。
別に欲があるわけでもない
人ですが、そのために膨大な
お金持ちになり、人のために
夢を持って人を応援し、天理
の理や宇宙の理、仏の世界を
みんなで努力して、融和した
世界を広めていけるようつと
めさせて頂きます。



誠綱 坂本 勝城

以前、学んだことを思い出
させてもらい、もっともっと
勉強したい気持ちになりました。
たくさん気付きを頂き、
研修会で学んだこと、気付い
たことを少しでも実践できる
よう、そのような気持ちで
日々暮らして行けるよう気持
ちを新たにしました。
遠い存在の大教会が身近に
感じられました。先生方や受
け入れの方の優しい穏やかな
気持ちに感謝です。

誠綱 渡邊美智子

今回、一緒に身上で来る人
のために付き添おうと思っ
て来させて頂きましたが、それ
が、実は自分のために見せて
頂いていることを気付かせて
頂き、衝撃でした。
天理教でいろいろ教えて頂
けることは、自分を知ること
も出来、また、回りの方々を
幸せにしていくことができる
人になっていくことのかな
と、今回の三日間で気付かせ
て頂きました。有難うござい
ました。

修養科事前研修会
よろこびセミナーを受講して

三回目を受講して、まだま
だ完全なる成長はしていない
ことに気付かせて頂き、三回
目の修養科を希望しておりま
す。

誠綱 小笠原敏子

今回の研修で身も心も若返
り、エネルギーがさらに満ち
あふれたような気がします。
体内で悪いところは一つもな
い私ですが、これはすべてお
たすけの賜物だと感じ、ご恩
返しにさらにさらに拍車をか
けたいと思いました。有難う
ございました。

登殿参列



12月26日、空気の澄んだ青
空のもと、9名の教会長が登
殿参列させて頂いた。

普段近所で見る事の出来な
い、かぐらづとめを目の前で
拝させて頂き、年祭活動の勇
みとさせて頂いた。

いつも側で見えてお導き
下さるのだと、その都度感動
でした。婦人さんはいつもの
夜行バスがなくなったので東
京に残っていたのですが、喜
びは最高潮でした。翌々日教
会に参拝にみえましたが、玄
関に入った第一声が「会長さ
ん、神様って本当にいるん
ですね。私のことお見捨てに
なつてなかったんですね」と
いう喜び一杯の言葉でした。
論達で「人救けたら我が
身救かる」と、ひたすらたす
け一条に歩む中に、いつしか
心は澄み、明るく陽気に救わ
れていく」とお示し下さるこ
とを思い、一年前ご主人の出
直しに心を倒していたとは思
えない、婦人さんの喜びの姿
に、おちばの理の尊さと教祖
の親心を感じさせて頂きまし
た。

大教会お鏡餅つき

12月28日、午前8時45分か
ら、大教会長を芯に参拝し、
お鏡用の餅つきを開始した。
31日のお礼づとめ、元旦祭、
正月三が日のお鏡餅の分を合
わせて9臼つかせて頂いた。
その後、午前11時より、自宅
や昼食用の餅つきが行われ、
住み込み人以外にも、にをい
がけで声をかけさせて頂いた
方や、大教会周辺の方、少年
会員合わせて12名が参加し、
6臼のお餅をつかせて頂き、
昼食には、つきたてのお餅を
おいしく頂いた。



詰所お鏡餅つき

12月25日、午前8時30分か
ら、本部元旦祭に御供する鏡
餅をつかせて頂いた。関西よ
うき会を中心に多くのひのき
しん者が集まり、一年のお礼
を込めて、一生懸命つかせて
頂いた。



大教会 元旦祭

立教187年の元旦祭が元日の
午前8時から執行された。
直轄信者、住み込みで今年
初めの座りづとめ、12下りの
おつとめが勇んでつとめられ、
教祖に年始の挨拶をさせて頂
き、大教会長の挨拶を受け祭
典を終えた。
また、元旦祭に向け役割練
習日を設け、特に少年会員が
頑張る、その成果を發揮した。
祭典終了後、集合写真を撮
り、お屠蘇と年始の言葉とし
ておふでさきを頂戴した。
その後、食堂にてお節やお
雑煮を食べて賑やかな元旦と
なった。



誠綱 山下 良子

大教会長様、研修会に携
わって下さった各教会長の皆
様、大変お世話頂き、ありが
とうございました。また、炊
事などの受け入れの皆様、有
難うございました。
この三日間の研修会で学ん
だことは、分かりやすい説明
でした。いろいろ気付かせて
頂き、自分が成長させて頂き
ました。天理教は奥深く、ま
だまだです。少し大人になっ
た気がします。皆さんの至れ
り尽くせりの心に変感謝致
します。

動 静

年 祭
▼東藻琴分教会五代会長・小針イチの霊様の20年祭、六代会長夫人・小針すみ子の霊様の1年祭が12月24日、東藻琴分教会にて瀬川定自・大教会役員祭主のもと執行された。

12月人のマ守護

○初席者 (1名)
誠 綱 中井雅浩

○中席者 (1名)
網 新 新川愛貴

○おさづけの理拝戴者(1名)
網 次 安田千晴

○教人登録者 (1名)
誠 央 加賀谷和子

○別席傍聴願 (1名)

育英会寄付者

三幣健志様(母二十年祭)
東藻琴分教会様(五代会長20年祭・六代会長夫人1年祭)
加賀谷和子様(夫1年祭)

大教会12月の動き

1日 役員会。直轄世話人会
2日 お話し会

3日 縦の伝道日
6日 お社掃除
9日 網走支部例会会場
10日 役員会会議。縦の伝道日
11日 教祖140年祭網走おたすけ委員会会議。育成部部会
12日 月次祭。役員会会議。連絡会
13日 教会長夫妻練り合い。修養科事前研修会(15日まで)
16日 会長、札幌方面直轄信者まわり。(19日まで)
17日 支部婦人会例会会場。縦の伝道日
18日 年末年始話し合い
20日 会長、年末信者まわり(21日まで)
22日 会長、おぢばがえり詰所23会
23日 会長、本部神殿奉仕つとめる。縦の伝道日
24日 五季御礼。会長、本部災救隊会議出席。詰所お鏡餅つき。修養科事前研修会講師研修。会長、教人講習会講師研修
25日 本部月次祭遙拝。一年御礼つとめ。結城

～お知らせ～

おぢばに帰参する際に届け出していた帰参届が、大教会のホームページから出来るようになりました♪ぜひご活用下さい！
パスワードを入力するところがありますので、「kisan」と入力してお使い下さい。



《帰参届》

27日 和広役員、本部神殿奉仕つとめる。登殿参列(9教会)
28日 細木善信役員、本部神殿奉仕つとめる
29日 お鏡餅つき。おもちつき。年末年始話し合い
30日 年越しみそか会

立教186(令和5)年人のご守護成果表 (12月末現在)
Table with columns for church name, type of service (初席, 中席, etc.), and total number of people served.

秋季大祭 12/12(火)
Table listing participants for the autumn festival, including names, roles, and church affiliations.